資料○

ガラス固化技術開発施設（TVF）における固化処理状況について

－運転再開に向けた対応状況－

令和2年3月●日

日本原子力研究開発機構（JAEA）

DRAFT

対応状況

- ✓ 廃止措置段階に移行した東海再処理施設が保有しているリスクを早期に低減していくため、高放射性廃液のガラス固化処理の早期再開の重要性を強く認識し、運転再開に向けて2ケースの対策を進めている。

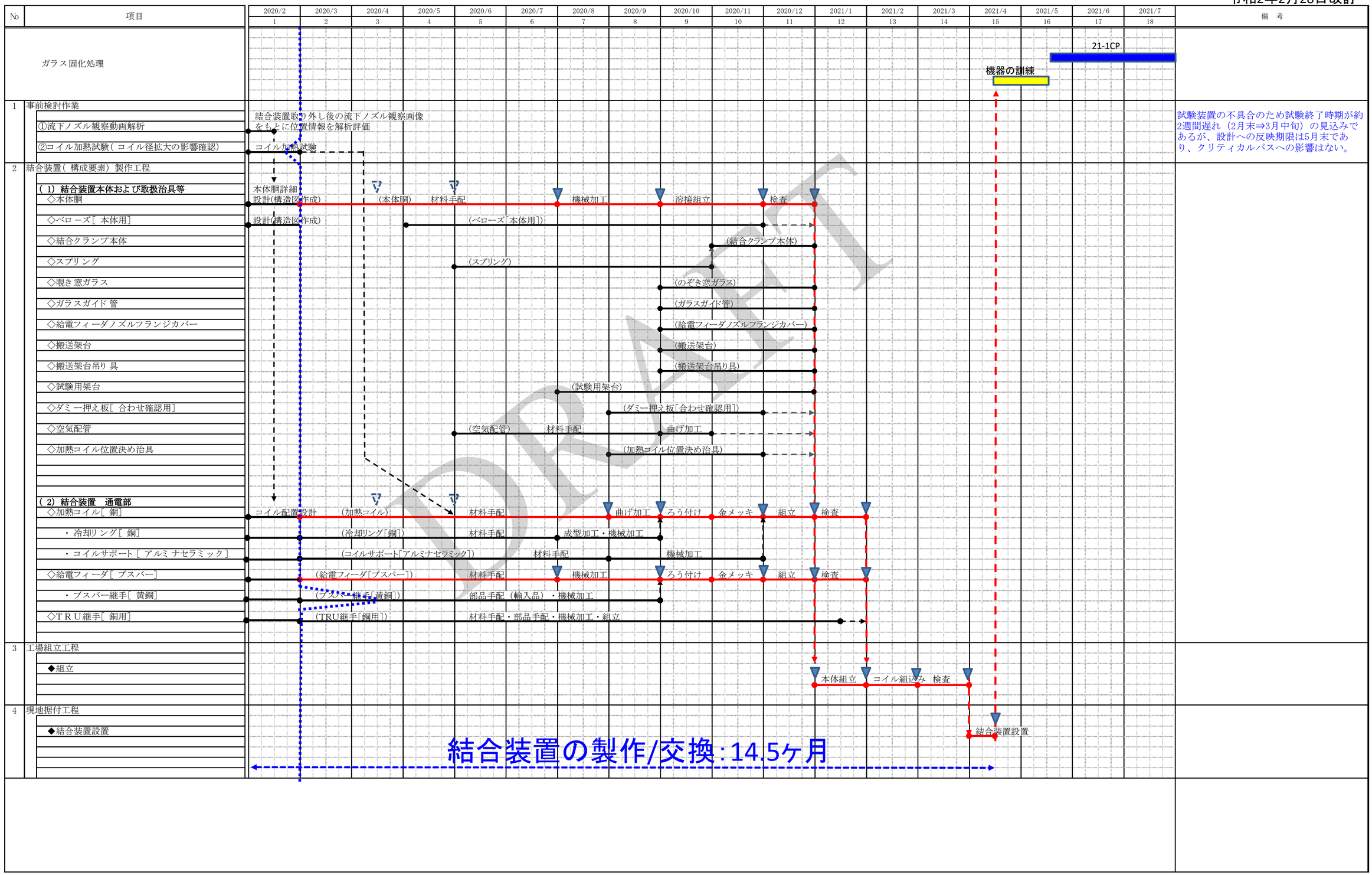
- ✓ 対策の進捗
  - ➢ ケース2（結合装置の製作/交換）の対応状況：別添資料-1
    - R2年1月末より材料手配に着手した。
    - 加熱コイル径拡大（Φ80mm⇒Φ90mm）、流下ノズルの傾きの進展傾向が変化した場合を考慮し、加熱コイルへの絶縁材設置した場合の影響に関する加熱試験を実施中（3/2～3/6）。

      → 試験装置の不具合のため試験終了時期が約2週間遅れ（2月末⇒3月中旬）の見込みであるが、設計への反映期限は5月末であり、クリティカルパスへの影響はない。
  - ➢ ケース3（3号溶融炉の製作）の対応状況：別添資料-2
    - インナーケーシングの構造変更（非対称構造⇒対称構造）等の妥当性について、熱応力解析を実施し、結果を取りまとめ中。（流下ノズルの傾きが抑制できる見込み）。
    - 今後、契約締結後にメーカから提示される各項目の詳細工程の精査により、可能な限り工程短縮を図るべく検討を継続する。

DRAFT

ケース2　全体詳細工程（工程短縮ケース）

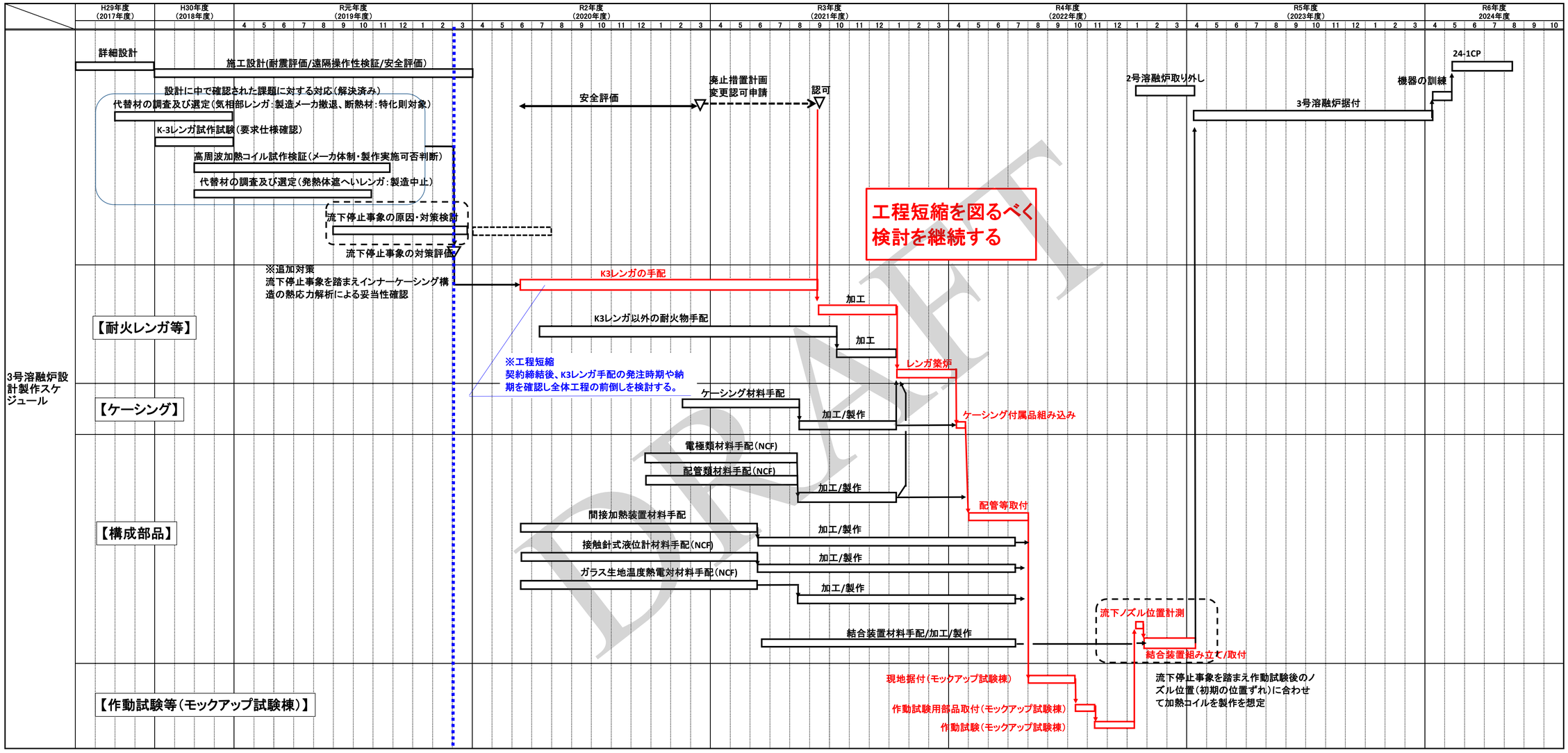
令和2年1月30日作成
令和2年2月28日改訂



DRAFT

TVF3号溶融炉の製作に係るスケジュール(1次ドラフト)

令和元年12月24日作成
令和2年2月28日改訂



DRAFT

- 製作・据付の工程短縮を検討中
- 2号溶融炉取り外し前に、ガラスの抜き出しが必要。実施時期は調整中。
- ケース2(結合装置の製作/交換)と並行して最短で進め、更新に向け早期に準備する。3号溶融炉への更新時期は、2号溶融炉の運転状況により調整する。